

魚津市定例記者会見 11月

日時：平成26年10月29日（水） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、
富山テレビ、KNB、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、
企画政策課長

1. 市長からの説明事項

(1) 台風18号による被害

10月中旬の台風19号で魚津漁協の定置網が被害を受けていたことがわかった。これからの漁業最盛期に向けて新しい網の発注をしているところで、行政側としても支援を含めた対策が必要と考えている。

(2) 名誉市民推戴・魚津市表彰式

11/3に魚津市出身で前衆議院議員の長勢甚遠氏を10人目の名誉市民に推戴する。同日市政功勞表彰も行い、ご功績のあった個人12人、団体4団体を表彰する。

(3) 平成27年度魚津市行政経営方針

平成27年度の予算編成に取り掛かるにあたり、行政経営戦略会議を11回開催し行政経営方針を定めた。行政経営の基本的な考え方としては、重点施策の選定、行政評価の活用、行政改革の推進の3点を基本として行政運営を行うこととする。今後、新年度予算のなかで各施策を具体化していくが、持続可能な、バランスの保たれた行財政運営に努めてまいりたい。

(説明内容は、別添資料のとおり)

(4) 平成29年度全国植樹祭

富山県での開催が決定しているが、11月半ばには全国緑化推進機構から魚津市を中心としたエリアでの開催について正式な決定通知がある予定。魚津市としても今後の大きな取組になる。魚津市石垣地内にある魚津採種園で育成を始めている優良無花粉スギには森林組合が精力的に関わっている。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「昨年 11 月の大町地区での火災について」

《記者からの質問》

昨年の 11 月 25 日に大町地区で発生した大規模な住宅火災から 1 年になるが、この火災を振り返っての行事と火災の教訓について。

《回答》

住宅密集地での火災に、はしご付消防ポンプ車が有効であるとのことで、11 月 4 日に滑川消防署に 15m 級のはしご車が配置されることになっている。

「27 年度からの学童保育について」

《記者からの質問》

平成 27 年 4 月から学童保育の対象が小学 6 年生まで拡大となるが、魚津市の対応スケジュールは？

《回答》

実施猶予が平成 30 年度までとなっており、魚津市の実施時期は未定。学童保育の定員が 1 クラス 40 人と定められ、現状はこれを超えているのでまずは定員どおりのクラスづくりに取り掛かる。(対象を 6 年生まで拡大する) 条例の整備は今年度中に行う。ただ、アンケートによると 4 年生以上の学童保育の要望は少ない。

「27 年度行政経営方針について」

《記者からの質問》

人口減少時代の中、行政経営のポイントはどこになるのか？また、日本創生会議からは、自治体によっては出産適齢期の女性が減少し人口が半分以下になる可能性もあると発表されているが、国がどのような視点で地方対策をするべきか、現場の責任者としての考えを聞かせてもらいたい。

《回答》

結婚適齢期の人たちに結婚を促し、子どもは 2 人以上もってもらおうというのが最も求められていることだと思う。現在取り組んでいるこのとりプロジェクトは大変ユニークな取り組みで、政府の政策にも合致している。若い人たちが結婚しやすい環境、子育てしやすい環境を整えるために様々な施策に取り組んでいるが、核家族化がこれ以上進行しないようにし、家族の力で子どもを育てていく必要がある。これは高齢化が進む中、家庭で介護をする力を蓄えることにもつながる。

《記者からの質問》

現実的には人口減少の流れが止まりにくく、その中で行政がやっていくべきこと、力を入れるべきはどのようなことか。

《回答》

働く場は会社や工場だけでなく、地域にある資源が雇用を生むような形にもっていけないかと考えている。

「千葉ロッテマリーンズ石川歩投手について」

《記者からの質問》

パ・リーグ新人王が確実視されているが、後援会などの動きは？

《回答》

12月上旬に少年野球教室を開催できないかということで関係者が協議中である。激励会の開催時期は未定。

「あいの風とやま鉄道について」

《記者からの質問》

運賃と、下り終電時間を現在よりも遅くすることが明らかになった。開業まであと数か月だが利便性向上のための具体的要望は？

《回答》

経営主体が変わっても駅がにぎわいの場であるための取り組みが必要と思っている。

《記者からの質問》

新潟県との県境をまたぐ利用者の利便性確保についてはどのように要請していくのか。

《回答》

県同志で話し合いをして（利便性確保を）なんとかしてもらいたいというのが切実な思いである。利用者の視点からは、県境を越えて利用すると初乗り運賃が再度かかるというのはさけてほしい。